

卒業生の合格体験記



千葉大学 文学部
日本・ユーラシア文化コース 【一般入試】
三宅 美輝

オープンキャンパスに行き、実際に講義を体験してみ、ここで学びたいと思う大学を志望校に決めました。受験勉強が辛く、途中でくじけそうになった時は、この大学で学びたいという思いが支えになりました。

受験勉強にあたっては、たくさん過去問を解くことをお勧めします。大学の傾向がつかめるだけでなく、過去問を解いてわからなかった部分を見直し、理解することで、難しい問題も解くことができるようになります。

私は過去問を解くことを、あえて一番難しい、第一志望の大学から始めました。最初は半分も解けず、散々な出来でしたが、何度も解くうちに馴れ、正答率が上がっていきました。過去問は最強の参考書だと思います。ぜひ一度解いてみてください。



上智大学 外国語学部
ポルトガル学科 【一般入試】

梅本 丈瑠

入試制度が変わるので今年度の受験生は浪人できない、とだいぶ前から言われていました。高3の秋、模試の結果は、英語以外は見るに堪えない成績でした。その頃から勉強方針を国語と世界史偏重にし、英語は過去問とその復習を中心に進めました。学校毎に出題傾向がかなり違うのでその対応に苦労しました。

重要だと思ったのは志望校選定です。成績に偏りがあったので英語の配点が高い学部を中心に選び、受験校も増やしました。合計14校受けましたが、多く受けると何度も同じ様な問題と出会うのでラッキーと感じる事もあります。模試の結果など気にせず目標を高く持ち、最後に鬼の様な追い込みをし、各種データ分析をして戦略的に受験することが大切だと思います。



東洋大学 国際学部
国際地域学科 【自己推薦】

中澤 真奈

私が東洋大学の国際学部を目指すことを決めたのは、三年生の夏休み前でした。

三年生の夏休みはほぼ毎日学校に行き、志望理由書や自己PRなどの出願書類を書きました。面接の練習や自己推薦入試の試験勉強も並行して行っていました。一番大事だと思ったことは、過去問を解いてわからない問題をなくしていくことです。私の周りには英語が優れている生徒も多く、恵まれた環境で準備を進めることができたため、英語での面接も落ち着いて上手く受け答えすることができました。

自己推薦入試は一般入試とは違い、面接の練習や過去問を繰り返し、経験を積み重ねることで合格に近づけると思います。皆さんも本当に行きたい学校を見つけて、最後まで諦めずに頑張ってください。



都立広尾看護専門学校
【公募推薦】

三浦 新菜

私は、都立広尾看護専門学校に公募推薦を受け合格しました。夏頃から小論文を書き始め、面接は一ヶ月前ごろから練習を始めました。小論文は、過去に出題されたテーマや他の大学で出題されたテーマなど、どんなテーマでも書けるようにたくさん練習しました。夏休みからは毎日、先生に小論文を添削してもらいました。面接は、自分が看護師になりたいという強い思いを持って、伝えたいことを短く簡潔に話せるように意識していました。

提出する志望理由書が面接の内容になるので、力を入れて取り組んでください。面接は、自分で自問自答をしながら練習するのいいと思います。また新聞などから、小論文のテーマや面接内容を学び、たくさん練習することが大切だと思います。

飛鳥高校では共通テストなど大学入試改革に対応した授業に取り組んでいます

●試験科目	共通テストの新傾向	飛鳥高校の対応	
英語科	23年度までの時限措置として残る試験は発音・アクセント、会話、文法を問う問題などが長文読解の問題へ。文量が増え、読解の速さ正確さが求められる。	・英語多読活動、英語劇コンテストやオンライン英会話による英語運用能力の底上げ ・英検とGTECの全員受験 ・放課後チューターや土曜講習による基礎的・発展的学習	
国語科	今年度は記述式の問題が見送られたが、グラフや資料を使用した複数のテキストを比較することを通して思考力を問われる問題が出題される。的確にポイントを押さえるためにも、幅広い基礎知識や考える力が必要となる。	的確にポイントを押さえる力をつけるために、100字要約・150字要約や、問いに対する解答を文章でまとめる力をつけるため、課題や考査で対応する。また、授業によってはグループ発表・討論・ディベートを実施し、資料を分析したり社会問題を取り上げたりし、幅広い知識や思考力を深め総合的に理解する力をつけていく。	
数学科	試験時間は現行のセンター試験の60分から70分に延長され、「問題を読み込む力」が問われる。	「問題文の意味理解」に重きを置いて授業を行う。問題文に書かれている条件式等をしっかり理解し、自分で解放を見出していく力を育てる。そのような問題を定期考査において出題する。	
理科	実験や観察に基づく探究活動を通じ、科学的な思考力等を問うような問題。	・本質的な情報を見いだす読解力向上の授業。 ・実験等を通じ、主体的に考察・推論する知的包括力を求める授業。 ・数的処理を伴う思考力等を鍛える授業。	
社会科	記述式の設問・思考力を問う設問が出題されることが予想される。	・諸資料から必要な情報を読み取り、単語ではなく文章で思考を表現できるよう、各授業の演習で取り組ませる。	
●試験科目以外の教科			
保健体育科	生徒の主体的なグループ活動の中で、リーダーシップやフォロアシップを育み、知徳体のすべての力を向上できるように、全年次で取り組んでいる。	芸術科	「思考力・判断力・表現力」を培う課題の設定・評価対話鑑賞などアクティブラーニングを取り入れた授業を通して、自己表現力を育てている。
家庭科	教科の特性を生かし「学力の3要素」を育み、実技・実習（福祉及び保育の体験実習・ボランティアも含む）体験・課題研究及び発表などの授業を工夫している。	情報科	生徒一人一人が主体的に学ぶことができるように、情報活用能力を身に付けさせ、情報社会を生きる上で必須の素養となる「情報を科学的に理解させること」に重点を置く。